

昔と今の住まいの比較を通した 「住まいの快適さ」を学ぶ授業の学習評価

—倉敷市における伝統的住宅を活用して—

合田 喜賢*1 青木 孝文*2

要 旨

本稿では、小学校家庭科の住居領域における「住まいの快適さ」を学ぶために作成した伝統的住宅を活用した授業の学習評価について考察した。『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校家庭』の「快適な住まい方における」評価基準にもとづき、学習評価のための各観点における内容・方法・ポイントを示した。加えて、社会科とのクロスカリキュラムを見据え、若干の考察を加えた。その結果、伝統的住宅を介することにより、学習評価の観点からも両科目の十分な連携が可能であろうことを示唆した。

Keywords : 小学校家庭科, 住居領域, 伝統的住宅, 授業評価
elementary school home economics, house domain, Japanese traditional house,
evaluation of the class

1. はじめに

前稿¹⁾では、小学校家庭科の住居領域における「住まいの快適さ」を学ぶため、伝統的住宅を活用した教材を提案した。提案の要点は次の2点である。1点目は、地域題材として倉敷市の伝統的住宅である大橋家を事例として取り上げることにより、いわゆる「和室」としてのイメージの共有を図りつつ、今と昔の住まい方の比較を通じて日本の生活文化に気づかせるという学習指導要領の目標および留意点に合致するよう目指したことである。2点目は、建物の写真を中心に構成し、具体的、視覚的かつ順序だてを明確にしたパワーポイントおよびワークシートを作成することにより、ASD 児にも公正な教材を目指したことである。

本稿では、前稿で示した教材を活用した授業による学習に対する評価方法について考察することを目的とする。その際に、上述した1点目の伝統的住宅を取り上げた点に関しては、正岡らによる、住まいの伝統や文化への意識を重要視したうえで、住居領域単独の指導には限界があるため、社会科や国語、道徳とのクロスカリキュラムの必要性があるという指摘²⁾を重視する。まず、評価方法について、学習指導要領の内容を踏まえるとともに、文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を参照し、「快適な住まい方」の評価基準を整理する。次に、前稿で提示した授業構想に触れ、伝統的住宅を題材とした「住まいの快適さ」の授業における評価

*1 川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療福祉デザイン学科

*2 川崎医療福祉大学 医療技術学部 臨床栄養学科

基準を提示する。そして、社会科との連携を見据えるという視点から、社会科の評価基準について触れ、若干の考察を加える。

2. 教育学習指導要領および参考資料の概要

2.1 住居領域の指導事項および内容の取扱い・目標および留意点

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』³⁾では、小学校家庭科は、「A 家族・家庭生活」、「B 衣食住の生活」、「C 消費生活・環境」で構成される。住居領域の内容は、「B 衣食住の生活」のうち、「(6) 快適な住まい方」に記載されている（pp.137-138）。それによれば、アの知識及び技能については、「(ア) 住まいの主な働き方が分かり、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方を理解すること。（イ）住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解し、適切にできること。」（p.138）、イについては、「季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓の仕方を教え、適切な住まい方を工夫すること。」（p.138）とある。

そして、文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭科編』⁴⁾B (6) ア (ア) についての解説には、「昔と今の住まいかたを比べる活動を取り入れるなどして、住まい方における日本の生活文化に気付くことができるようにする」（p.59）とあるように、昔の住まい方との比較を通じて日本生活文化に気づかせることが主な目標と留意点となっている。

2.2 学習評価

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校家庭』⁵⁾によれば、観点別学習状況の評価は、平成29年の改訂により、それまでの4つの観点（「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」）から、の3つの観点（「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」）に整理され、指導との一体化が実現されやすくなることが期待されている⁶⁾。

B (6) 「快適な住まい方における」評価基準例は、次の通り整理されている（p.82）。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的な学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 住まいの主な働き方が分かり、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解している。 ・ 住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解しているとともに、適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の一員として、生活をよりよくしようと、快適な住まい方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

また、これらの評価の具体的な方法は、以下のようになる。

「知識・技能」は、ペーパーテストにおいて、事実に知識の習得と概念的な理解の問題のバランス、文章による説明、観察・実験、式やグラフで表現することとする (p.9)。「思考・判断・表現」は、ペーパーテスト、論述・レポート、発表、グループでの話し合い、作品制作や表現を行うこととする (p.9)。「主体的に学習に取り組む態度」は、個人内評価、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど学習を調整しながら学ぼうとする、意識的な評価が重要だとする。

このように、新たに整理された 3 つの観点から学習評価を行う評価基準例および具体的な評価の方法にもとづき、以下では学習評価を検討する。

3. 授業の到達目標および評価の基準

3.1 授業構想

題材名は、「昔の住まいを手がかりに快適な環境を考えよう」である。

表 1 は授業の流れの略案である。前稿¹⁾で示した表を今一度掲載する。

表 1 授業の流れ (略案)

児童の活動	指導の方法
○大橋家住宅のかたちを把握する	○パワーポイントで大橋家住宅の写真をみながら建物について解説する
○ワークシートに記入する	○軒、縁側、建具の写真から、通風、直射日光、採光の観点から大橋家住宅の住まいかたを考えさせる
○現代の住宅で「快適な住まい」を考える	○ワークシートの記載内容をもとに現代住宅に快適さの応用可能な取り組みを考える
○今日の学習を振り返る	○数名に発表させる

3.2 到達目標・評価

上記の授業では、ワークシートの作成を活用し、児童に対して次の 1) から 3) を注目させるものである。

- 1) 軒・縁と中庭から室内外の日照の相違点
- 2) 建具 (障子) と採光の関係
- 3) 建具 (襖と障子) と採光および通風の関係

評価基準は、前章でまとめた評価基準例をもとに、表 1 にまとめた授業の流れに対応させ、次の通りとする。

「知識・技能」では、伝統的住宅に関する用語を知り、具体的にどのような特徴のある場か理解できるようになることとした。上述したように、伝統的住宅における、「軒」、「縁」、「建具 (襖・障子)」の用語は押さえておきたい。「軒」は直射日光を遮る役割があり、夏季

においては暑さを防ぎ、冬季においては日光を室内側まで届かせ暖かさをもたらすという特徴がある。「縁」は、屋内であるとともに屋内でもあるという日本特有の空間で、採光、通風を感じられる場である。「建具（襖・障子）」は、開閉によって室内の採光を調整するとともに、障子は占めた状態でも和紙を通して柔らかな明かりが入る。また、いずれも開閉することで、室内の通風を調整し、室内の環境をコントロールする役割がある。以上のような特徴を理解できることを評価のポイント、基準とする。

「思考・判断・表現」では、伝統的住宅を通じて、快適に住むための工夫を理解するとともに、現在生活している住まいに应用が可能かどうか考え、表現できることを評価のポイント、基準とする。

「主体的に学習に取り組む態度」では、実際に暮らしている現在の住まいに应用できるよう、実践したり、改善したり取り組むことができることを評価のポイント、基準とする。

以上をまとめると表2のようになる。

表2 学習評価のための各観点における内容・方法・ポイント

評価観点	評価内容	評価方法	評価ポイント・評価基準
「知能・技能」	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的住宅の用語を理解しているか ・住宅の特定の場の特徴を理解しているか 	ワークシート	(1) <u>軒、縁、障子、襖などの用語を理解できる</u> (1) (2) <u>軒下、縁側の環境的な特徴を理解できる</u> (2) (3) <u>建具の違いにより、採光、通風の調整ができることを理解できる</u> (2)
「思考・判断・表現」	快適さの工夫が発見できたか	ワークシート	(1) <u>伝統的住宅</u> (3)を通じて、快適に住むための工夫を理解することができる (2) 現在生活している住まいに应用が可能か考え、表現できる
「主体的に学習に取り組む態度」	現代住宅（自宅）への应用ができるか	ワークシート 発表	自宅での生活に取り入れられる工夫として应用できるよう、実践、改善できる

3.3 評価の基準にみる社会科との連携に関する考察

最後に、クロスカリキュラム、特に社会科との連携の観点から若干の考察を加える。

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校社会』⁷⁾巻末資料には、「我が国の歴史上の主な事象」の内容ごとの評価基準例が掲載されている (p.88)。これによれば「知識・技能」は、「我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理

解しているとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解している.」,「遺跡や文化財, 地図や年表などの資料で調べ, まとめている。」(p.88. 下線は引用者) とある。また, 「思考・判断・表現」では, 「世の中の様子, 人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して, 我が国の歴史上の主な事象を捉え, 我が国の歴史の展開を考えるとともに, 歴史を学ぶ意味を考え, 表現している。」(p.88. 下線は引用者) とある。つまり, 「知識・技能」および「思考・判断・表現」のいずれにおいても, 評価に際しては, 文化財, 文化遺産に関する理解が求められている。

このような評価基準について, 表2において関連すると考えられる個所を下線で示した。下線部(1)については, 縁, 軒, 襖, 障子は, 寺院や神社などにも使われることがあり, 伝統的住宅の使用だけに留まるものではない。下線部(2)は, いずれも日本の伝統的住宅の機能であり, 日本の気候などに対応すべく歴史的に培われてきた特徴であるといえる。したがって, こうした用語とその意味や機能を理解することは, 結果として, 部分的ではあるが, 文化財を調べ, その優れた点を理解することになる。下線部(3)については, 前稿で取り上げた大橋家住宅は, 国指定重要文化財建造物であり, 我が国の代表的な文化財である。文化遺産などに含まれる伝統的住宅も数多くあり, 地域題材として地元の伝統的住宅を活用することは, 文化財, 文化遺産への注目を促すと考えられる。以上のように, 伝統的住宅への理解は, 小学校家庭科の住居領域と社会科の結節点として位置づけられ, 評価とも関連づけた連携につながると期待できる。

4. 結びにかえて

以上, 前稿において提案した小学校家庭科の住居領域における「住まいの快適さ」を学ぶため, 伝統的住宅を活用した教材について, 学習評価を検討のうえ提示した。

その内容については, 表2で示した通りである。また, クロスカリキュラム, 特に社会科との連携の観点から若干の考察を加え, 伝統的住宅を介することで, 評価の観点からも両科目の連携が可能であろうことを示唆した。

本稿では, 住居領域の立場からの一面的な見方に留まったため, 今後の課題として社会科の立場からの検討が必要である。また, このような家庭科と社会科の横断的な授業を計画し, 共通した評価を行うためには, 教科横断的な授業計画の検討が必要となるが, この点については稿をあらためたい。

文 献

- 1) 合田喜賢：昔と今の住まいの比較を通した「住まいの快適さ」を学ぶ教材の提案—倉敷市における伝統的住宅を活用して—, 川崎医療福祉学会誌, 33(補冊), 2023, pp.114-121.
- 2) 正岡さち, 亀崎美苗, 榎本ヒカル, 坂本晴紀, 田中宏子：小学校の和室に対する意識をふまえた住生活文化教育のあり方, 島根大学教育学部紀要(教育科学), 第55巻, 2022, pp.43-51.

- 3) 文部科学省：小学校学習指導要領（平成 29 年告示），東洋館出版社，2018.
- 4) 文部科学省：小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 家庭科，東洋館出版社，2018.
- 5) 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校家庭，2020.
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_katei.pdf（2023.9.25 閲覧）
- 6) 丸山早苗：家庭科における指導を充実させるための評価の在り方とそのポイント．初等教育資料，999，2020，pp.16-21.
- 7) 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校社会，2020.
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_shakai.pdf（2023.9.27 閲覧）